



# 環境と経済の好循環を担う 「環境ビジネスウィメン」からの メッセージ

～健やかで美しく豊かな環境先進国を目指して～

環境省  
環境ビジネスウィメン懇談会



## 目次

1. 環境ビジネスウィメン懇談会とは …… 3
2. 環境ビジネスウィメンの活動の展開 …… 4
3. 環境ビジネスウィメンの活動を紹介する本の出版 …… 5
4. 環境ビジネスウィメン懇談会のメンバー紹介 …… 6
5. 環境ビジネスウィメンからのメッセージ …… 9
  - (1) 第1期環境ビジネスウィメン懇談会メッセージ …… 9
    1. 女性と環境と経済：元気な日本をつくる3つのキーワード …… 9
    2. 環境の仕事で未来を開く …… 9
    3. メッセージ …… 10
      - (1) 環境の仕事を目指す人へ …… 10
      - (2) 金融・投資について …… 11
      - (3) 環境情報・環境教育について …… 11
      - (4) 行政について …… 12
    4. おわりに …… 12
  - (2) 第3期環境ビジネスウィメン懇談会メッセージ …… 13
    1. 持続可能（サステイナブル）な社会づくりと環境ビジネス …… 13
    2. 環境ビジネスウィメンの活動の展開 …… 13
    3. メッセージ …… 14
      - (1) 女性の共感が導く持続可能な社会づくり …… 14
        - 持続可能なライフスタイルに必要な製品・サービスの提供 …… 15
        - 持続可能なライフスタイル実現に向けた環境教育、情報発信 …… 16
        - 持続可能な社会を支える静脈産業や金融ビジネス、行政の施策 …… 16
      - (2) 持続可能なライフスタイルを実現するために必要な取組 …… 16
      - (3) G8 環境大臣会合、G8 洞爺湖サミットに向けた環境ビジネスウィメンからのメッセージ …… 17

# 1

## 環境ビジネスウィメン懇談会とは

日本を美しく豊かな環境先進国にしていくためには、経済社会活動に、環境や生活に敏感な人たちのパワーを取り入れて、環境を良くすることで経済を発展させ、経済の活性化が環境を改善する『環境と経済の好循環』をつくることが必要不可欠です。

そこで、平成 16 年に、小池環境大臣（当時）の呼びかけで、「環境ビジネスウィメン環境と経済の好循環を語る」と題した懇談会（以下「環境ビジネスウィメン懇談会」）が開催されました。この懇談会には、環境分野で起業し事業を展開している女性起業家が参加し、環境ビジネスの創造過程や課題、環境ビジネスの今後の可能性や国の政策への提案などについて白熱した議論がなされ、環境ビジネスウィメンからのメッセージがとりまとめられました。平成 17 年には、小池大臣の下、新たなメンバーによる第 2 期の懇談会が開催され、第 1 期の懇談会を踏まえ、環境と経済の好循環づくりに向けたさらなる意見交換が行われました。

また、平成 19 年からは、女性起業家の方に加え、企業や行政の中で環境の分野で活躍されている方をメンバーとして迎えて、第 3 期の環境ビジネスウィメン懇談会が、第 1 回目は、土屋副大臣（当時）、第 2 回目、第 3 回目は鴨下大臣（当時）の出席のもと開催されました。懇談会では、メンバーによる活動報告をもとに、2050 年に向けた持続可能な社会を切り開く環境ビジネスウィメンの果たすべき役割などについて意見交換が行われ、G 8 環境大臣会合、G 8 洞爺湖サミットに向けたメッセージとして環境ビジネスウィメンからのメッセージがとりまとめられました。



## 2

### 環境ビジネスウィメンの活動の展開

第1期、第2期の環境ビジネスウィメン懇談会のメンバーは、懇談会における意見交換にとどまらず、活動に責任を持ち、新たなネットワークを広げ、自主的活動から広く定着する活動へ発展させていくことを目的に、平成19年4月「有限責任中間法人 環境ビジネスウィメン」を設立しました。

有限責任中間法人環境ビジネスウィメンは、以下の事業を展開することとしています。

- ◎ネットワーク事業
- ◎次世代起業家支援事業
- ◎情報発信事業
- ◎上記に関連する事業

次世代起業家支援事業、情報発信事業として、官民協働事業として行う eco japan cup（エコビジネスの芽を見つけ、育てるコンテストイベント）を開催しています。

また、環境ビジネス女性起業家のネットワーク拡充も行い、「環境と経済の好循環」の定着を目指しています。

# 3

## 環境ビジネスウィメンの活動を紹介する本の出版

環境ビジネスウィメン（第1期メンバー）の自らの起業の経緯、仕事ぶりや苦労話、環境ビジネスに携わる中で新しく持ち得た視点などを紹介した『環境ビジネスウィメン 11人成功の原点と輝く生き方』（日経BP社）を平成17年に出版しました。また、翌年には第2期メンバー9人の女性のさらに自由な発想で生き生きと活動している姿を紹介した『エコゴコロ～環境を仕事にした女性たち』（共同通信社）を出版しています。



# 4

## 環境ビジネスウィメン懇談会のメンバー紹介

### 環境ビジネスウィメン【第1期メンバー】2004～

#### 小池 百合子 (こいけ ゆりこ)

[衆議院議員] ……76年エジプト・カイロ大学を卒業後、日本テレビなどでキャスターを務める。92年参院議員当選。93年以後衆議院議員に連続当選。03年、環境大臣就任。06年内閣総理大臣補佐官就任、07年防衛大臣就任。  
URL: <http://www.yuriko.or.jp/>

#### 堤 恵美子 (つつみ えみこ)

[株式会社タケエイ 上席顧問] 92年産業廃棄物処理業の株式会社タケエイに入社。98年「循環型社会推進国民会議」に幹事として参加。2001年、取締役就任。建設混合廃棄物のリサイクル率を大幅に向上させるなど、廃棄物処理で独自のノウハウを蓄積している。  
URL: <http://www.takeei.co.jp/>

#### 枝廣 淳子 (えだひろ じゅんこ)

[環境ジャーナリスト/有限会社イーズ代表/ジャパン・フォー・サステナビリティ共同代表] 環境関係の国際会議などで通訳として活動するほか、環境マネジメントシステム、環境教育、環境報告書などの分野でコンサルティング活動を行う。2002年、日本の環境情報を世界に発信するNGO「Japan for Sustainability」を立ち上げ、共同代表に。  
URL: <http://www.es-inc.jp/>

#### 染谷 ゆみ (そめや ゆみ)

[株式会社ユーズ 代表取締役/TOKYO 油田2017 代表] 1993年有限会社染谷商店で廃食油からのバイオ燃料「VDF」の開発に成功する。97年株式会社ユーズを設立し廃食油回収から再利用の資源循環型社会モデルを構築する。2017年までに、東京の油を一滴残らず集める「TOKYO 油田2017」プロジェクトを展開中。  
URL: <http://tokyoyuden.jp/>

#### 安井 悦子 (やすい えつこ)

[株式会社グレイス 代表取締役社長] 人材派遣会社勤務を経て、1995年(株)グレイス設立。環境分野を専門とする人材の派遣・紹介をする一方、企業のブランディングや販促ツールの制作などを扱う広告代理業も行う。99年人材派遣業では初のISO14001の認証を取得。2000年には、環境系求人求職サイト環境job.netを立ち上げる。また、一人ひとりが生き生きと働き、自らの可能性を社会貢献に活かす『グリーン雇用』という働き方を提唱し、各種セミナーや講演を実施するなど普及啓発に努める。  
URL: <http://www.grace-e.co.jp/>  
<http://www.kankyo-job.net/>

#### 鈴木 敦子 (すずき あつこ)

[株式会社環境ビジネスエージェンシー 代表取締役/特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所理事長] 大手製紙会社を経て、環境コンサルティング会社入り。99年に独立し、さまざまな角度から環境コミュニケーションの事業を実践。2003年、NPO法人環境リレーションズ研究所設立。05年、株式会社環境ビジネスエージェンシー設立。  
URL: <http://www.ebagency.jp/>

#### キャシー 松井 (きゃしー まつい)

[ゴールドマン・サックス証券株式会社 マネージング・ディレクター、汎アジア投資調査部門統括、日本株チーフ・ストラテジスト] 1994年ゴールドマン・サックス証券会社に入社。日本株の投資戦略で高い評価を得る。リーダーシップ111など女性グループの中堅メンバーであり、女性を取り囲む社会・環境の改善に取り組む。



#### 崎田 裕子 (さきた ゆうこ)

[ジャーナリスト、環境カウンセラー、環境ビジネスウィメン 代表/NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長/NPO法人新宿環境活動ネット 代表理事] 立教大学社会学部卒。(株)集英社での雑誌編集を経て、フリージャーナリストに。講演・執筆の他、環境カウンセラーとして環境学習の推進に取り組む。中央環境審議会などの委員としても活躍。  
URL: <http://www.sakita-office.jp/>  
<http://www.genki-net.jp/>  
<http://www.shinjuku-ecocenter.jp/>

#### 谷 みどり (たに みどり)

第1期環境ビジネスウィメン懇談会環境省担当

#### 藺田 綾子 (そのだ あやこ)

[株式会社クレアン 代表取締役] 企業と市民をつなぐコミュニケーションとして環境報告書やサステナビリティレポートを作成。次世代にとっても、ほんとうに幸せで豊かな社会を実現するために活動中。サステナビリティ日本フォーラム事務局長。  
URL: <http://www.cre-en.co.jp/>

#### 善養寺 幸子 (ぜんようじ さちこ)

[一級建築士事務所 オーガニックテーブル株式会社 代表取締役] 2000年自宅として都市型環境共生実験住宅『アクティブ・エコ住宅』を建築。各種の賞を受賞。以後、エコ住宅専門の設計事務所として展開。2001年オーガニックテーブル株式会社設立。学校のエコ改修と環境教育事業の政策モデルづくり、環境都市計画にも取り組む。  
URL: <http://www.organic-t.com/>

## 【第2期メンバー】2005～

### 秋山 をね (あきやま をね)

[株式会社インテグレックス 代表取締役社長] 米系証券会社で債券トレーダーを務めた後、青山学院大学ファイナンス修士取得、米国駐在を経て2001年SRIおよびCSRの推進を行う(株)インテグレックスを設立、代表取締役に就任。内閣府国民生活審議会臨時委員などを務める。  
URL: <http://www.integrex.jp/>

### 五十嵐 和代 (いがらし かずよ)

[株式会社五十嵐商会 代表取締役社長] 企業内研修講師を経て、(株)五十嵐商会・警備部門立ち上げ。2001年に総合ビルメンテナンス業の(株)五十嵐商会代表取締役に就任。同年、学校給食の肥料化事業開始。2004年ISO認証取得。練馬区循環型社会推進会議委員などを通して環境活動に取り組む。  
URL: <http://www.igarashisyoukai.co.jp/>

### 高見 幸子 (たかみ さちこ)

[国際NGOナチュラル・ステップ・インターナショナル 日本支部代表] 1995年からスウェーデンの環境保護を日本に紹介。1999年から国際NGOナチュラル・ステップ・インターナショナルの日本支部代表。企業・自治体の環境対策の支援活動を展開中。幼児の環境教育「森のムツレ教育」の普及活動もしている。  
URL: <http://www.tnsij.org/>

### 三澤 文子 (みさわ ふみこ)

[岐阜県立森林文化アカデミー教授/Ms建築設計事務所] 1982年(株)現代計画研究所にて木造住宅に出会い1985年大阪でMs建築設計事務所を開業。以来、地域木材利用の木造住宅を数多く設計。1995年阪神大震災での被害調査活動を機に木造教育にかかわることになる。2001年から岐阜県立森林文化アカデミー教授。  
URL: <http://www.forest.ac.jp/>

### 児玉 千洋 (こだま ちひろ)

[エコテスト株式会社 代表取締役] NTTデータ経営研究所環境グループのコンサルタントとして環境政策業務に従事した後、2001年女性2名で環境分析を行うエコテスト社を設立。2004年分析会社15社をネットワークした環境分析ポータルサイトecotest.jpを立ち上げ。  
URL: <http://www.ecotest.jp/>

### 森 裕子 (もり ひろこ)

[株式会社ハチオウ 代表取締役社長] 化学系廃棄物処理のハチオウ創成期から、会社の裏方に徹し、採用から人材育成、企業の価値創造など、女房役として事業拡大に尽くす。社長就任後もパワフルな行動力をもって、廃棄物にとらわれず、環境という広い視野に立って、事業拡大を志向している。  
URL: <http://www.8080.co.jp/>



### 金城 祐子 (きんじょう ゆうこ)

[株式会社グレイスラム 代表取締役] 沖縄電力の関連会社、アステル沖縄の社員時代に「沖縄のサトウキビでラム酒をつくりたい」と、沖縄電力の社内ベンチャー制度に応募。2004年3月に株式会社グレイスラムを設立。同年12月「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」(日経ウーマン主催)受賞。  
URL: <http://www.rum.co.jp/>

### 松平 悠公子 (まつだいら ゆみこ)

[株式会社日経BP社 日経ビジネス編集管理部長・企画編集部長] 2005年3月から「家族と自然にやさしい暮らし」をテーマにしたLOHASマガジン「ecomom」のプロデューサーをつとめると同時にecomomサイトを主催し、「環境、安全、自然、共感」をテーマにした情報を発信。  
URL: <http://nikkeibp.jp/ecomom/>

### 永峰 好美 (ながみね よしみ)

[株式会社ブランタン銀座 取締役] 読売新聞記者として、主に女性・子ども、高齢者、消費者運動、労働、NGO、国際協力などをテーマに取材。2003年、米カリフォルニア大学パークレー校客員教授。2005年5月より現職。おしゃれて楽しいエコロジカルなライフスタイルを提案している。  
URL: <http://www.printemps-ginza.co.jp/>

### 藤倉 まなみ (ふじくら まなみ)

第2期環境ビジネスウィメン懇談会環境省担当

## 【第3期メンバー】2007～

### 大和田 順子 (おおわだ じゅんこ)

[LBA (ロハス・ビジネス・アライアンス) 共同代表 / NPO 法人環境立国 理事] 東急総合研究所、ザ・ボディショップ、イースクエアなどを経て、2006年4月に独立。2002年日本に初めてLOHASを紹介。人、地域、社会の健康を志向する新しい価値観LOHASを、ビジネス、地域活性化に活用し、サステナブルな社会の実現に情熱を傾けている。主な著作『ロハスビジネス』(朝日新書)。「eco japan cup 2007」において環境ビジネスウイメン賞受賞。

URL: <http://lohas-ba.org/>  
<http://www.aej7.com/>

### 岸 紅子 (きし べにこ)

[株式会社コロン 代表取締役 / ビエナライフスタイル研究所 代表 / NPO 法人日本ホリスティックビューティ協会 代表理事] 働く女性を美容と健康の面からサポートする美容サイト「ビエナ ([www.biena.net](http://www.biena.net/))」を運営する傍ら、商品開発・接客力向上のためのコンサルティングやビューティビジネスに関する専門家として活動。個人としては、美容家としていち早くホリスティック (包括的) ビューティのメッセージを発信。各メディアで活躍中。

URL: <http://www.biena.net/>

### 木村 麻紀 (きむら まき)

[環境と社会貢献と「志」のビジネス情報誌「オルタナ」副編集長 / ジャーナリスト] 時事通信社記者を経てフリー。米コロンビア大学経営大学院客員研究員を経て現職。環境と健康を重視したライフスタイルを指すLOHASについて、ジャーナリストとしては初めて日本の媒体で本格的に取り上げ、地球環境の持続可能性を重視したビジネスやライフスタイルを分野横断的に取材し続けている。

URL: <http://www.alterna.co.jp/>

### 中庭 知重 (なかにな ちえ)

[社団法人産業環境管理協会 環境マネジメント標準チーム長 製品環境情報事業センター主査] エコラベルを中心とした、エコプロダクツ・サービスの環境パフォーマンス評価技法および製品環境情報の活用施策についての調査研究を担当。ISOにおいて、エコラベルの国際規格をつくる委員会の日本代表エキスパートを務める。エコラベルゲームの普及活動も展開。

URL: <http://www.jemai.or.jp/>

URL: <http://www.jemai.or.jp/ecolabel-game/> (エコラベル)

### 中島 恵理 (なかじま えり)

第3期環境ビジネスウイメン懇談会環境省担当

### 大庭 みゆき (おおば みゆき)

[株式会社環境エネルギー総合研究所 代表取締役] (財) 省エネルギーセンターでの17年間の勤務を経て、起業。「生活者の視点」でとらえるエネルギー・環境問題をテーマとして、家庭のエネルギー分析、省エネアドバイスなどのコンサルタント。2007年度環境省「NGO/NPO・企業環境政策提言」において優秀賞を獲得。

URL: <http://www.eer.co.jp/>

### 河口 真理子 (かわぐち まりこ)

[株式会社大和総研 経営戦略研究所 主任研究員] 1986年大和証券入社、94年大和総研転籍、97年から金融と環境についての研究会を社内でボランティア的にスタートさせ、98年からエコファンドやSRIの研究・環境経営、CSR全般についての調査研究に従事、現在に至る。

URL: <http://www.dir.co.jp/souken/>



### 竹本 徳子 (たけもと のりこ)

[東北大学大学院生命科学研究所 生態適応グローバルCOE 特任教授] (株) カタログハウスにて、2000年より環境マネジメントを担当。販売商品の修理、中古販売、リサイクルにつとめる傍ら、再生可能エネルギーを推進する市民ファンドへの出資応募支援などエコひいき事業を展開。2008年より現職。持続可能な協働をめざす大学と企業、NGO、行政を結ぶコンソーシアムの設立と運営を担当。

URL: <http://www.lifesci.tohoku.ac.jp/>

### 近藤 やよい (こんどう やよい)

[足立区長] 警視庁女性警察官、東京都議会議員を経て、07年、足立区長就任。08年「環境サミット in 足立」を開催するなど、区民の方々が、身近な、ほんの小さなことからでも具体的な行動を起こしていただけるよう「一人の100歩より、100人の一歩」を引き出すための具体的な施策を展開している。

URL: <http://www.city.adachi.tokyo.jp/>

### 玉置 晴美 (たまき はるみ)

[株式会社たまき 代表取締役] 05年代表取締役就任。官公庁・学校・企業などの制服に特化したネックウェアを全国的に展開。素材のポリエステルの特長を生かし、回収した繊維をケミカルリサイクルの技術で再び糸に戻し、その糸を使用し製品にする環境配慮型設計の製品を提供する。繊維の分野から循環型社会の実現を目指す。

URL: [www.tamac.co.jp/](http://www.tamac.co.jp/)

### 齊藤 眞澄 (さいとう ますみ)

[日本生活協同組合連合会 事業企画室 室長スタッフ] 環境負荷の少ない生活のあり方を、組合員とともに考え、商品や事業としてつくりあげていくこと。メンバーシップの生協だからこそできる課題にチャレンジします。

URL: <http://jccu.coop/>

### 辰巳 菊子 (たつみ きくこ)

[社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 常任理事 環境委員長] 教職を経て消費生活アドバイザー資格取得。持続可能な暮らしを目指し、企業と消費者の環境コミュニケーション促進につながる3R関連やグリーン購入の活動をしている。グリーン購入ネットワーク代表理事、3R推進マイスター、産業構造審議会、中央環境審議会委員なども務める。

URL: <http://www.nacs.or.jp/>

### 吉本 花子 (よしもと はなこ)

[日栄産業株式会社 専務取締役] 1999年入社。東京都・京浜島で、汚泥、燃え殻、ばいじんなどの保管積替および海上陸上輸送施設と、リサイクルの優等生といわれているコンクリート塊の再生砕石事業を運営。東京港内のリサイクルポート認定施設・棧橋併設の再資源化工場として、モーダルシフトによる広域利用を促進し、さらなるCO<sub>2</sub>削減を目指す。

URL: <http://nichiei-sangyo.jp/>



# 5

## 環境ビジネスウィメンからのメッセージ

### (1) 第1期環境ビジネスウィメン懇談会メッセージ

#### メッセージ：元気な女性が創る環境ビジネス

(「環境ビジネスウィメン環境と経済の好循環を語る」報告)

#### 1. 女性と環境と経済：元気な日本をつくる3つのキーワード

##### 【小池環境大臣の呼びかけ】

エネルギーなどの資源が乏しい日本にも、大きな資源があります。それは、人的資源です。日本は戦後、この人材を活かして経済発展を成し遂げました。

しかし、この人的資源の中で、まだ十分に活かされていない部分があります。それは、女性の力です。この未活用資源は、日本がこれから新しい発展を遂げていく上で、貴重な財産だと考えられます。元気な女性のパワーは、環境を良くする事業活動の起業や経営にも活かされ始めています。

環境の世紀といわれる21世紀には、これまでとは異なる新しい発展の形が必要です。それは、環境を壊さない経済づくりは当然として、それをさらに進めて、環境を良くすることが経済を発展させ、経済の活性化が環境を改善する「環境と経済の好循環」を重視することです。これが実現した社会の理想像として、環境省は「環境と経済の好循環ビジョン」をつくりました。これは、2025年を一つの到達点として、日本を「健やかで美しく豊かな環境先進国」にしようとするものです。

この理想を実現させるためには、「環境革命」が必要と考えます。これは、環境負荷を減らし、世代を通じて生活の質を高めながら将来世代と環境の恩恵を分かち合うという意識革命や、これが生み出す技術革新などによって、暮らしや経済活動の根本で、これまでにない新しい発展をもたらそうとするものです。このような発展を実現するための起爆剤の一つが、女性の力ではないでしょうか。

慣習や制度の壁を乗り越え、それぞれの分野で自ら人生を切り開いてこられた女性の元気を分けていただいて、元気な日本をつくる力にしたいと思います。

#### 2. 環境の仕事で未来を開く

[参加者のコメント：発言順]

- ◎パートナーシップ社会のつなぎ手であるNPOをしています。生活者の視点に立って、地域での環境まちづくりを支援しています。(崎田委員：司会)

- ◎使った後のてんぷら油などを回収して改質し、バスやトラックの燃料にしています。「東京大油田」を掘り起こしている夢があります。(染谷委員)
- ◎環境に関わる人材を派遣しています。環境マインドの高い、自ら生き生きと働く人が増えることは、持続可能な社会に繋がると信じています。(安井委員)
- ◎資本市場という視点からも、環境と経済という課題が広がってきています。「社会的責任投資」は、最近注目を集めている言葉です。(松井委員)
- ◎企業の環境情報を発信する環境報告書などを作っています。次世代も地球と人類が共存する、笑顔あふれる幸せな社会ビジョンが必要だと思います。(園田委員)
- ◎建設混合廃棄物の処理をしています。リサイクル素材を利用する技術を開発したり、先導的な資源循環型処理を目指しています。(堤委員)
- ◎環境事業のプロモート支援などを行っています。専門的な環境情報を一般向けに伝えたり、環境ニーズの橋渡しなどをするNPOもしています。(鈴木委員)
- ◎断熱に加え、自然エネルギーを利用するエコ住宅を設計しています。校舎のエコ改築と環境教育を合わせた政策提言が環境省に採用されました。(善養寺委員)
- ◎環境分野の通訳、翻訳をし、環境ジャーナリストをしています。NGOでは、日本の環境の取組や技術を世界に発信しています。(枝廣委員)

### 3. メッセージ

#### (1) 環境の仕事を目指す人へ ~ 強い目的意識でやりがいのある仕事を~

環境分野のビジネスは、発展性と意義のある仕事です。自分の好きなことをやりながら社会に貢献し、お金も得られるとしたら、ほんとうに幸せなことです。それが可能なのが環境ビジネスです。

しかし、やり甲斐と収入との両立を実現するためには、人生経験のすべてを動員して、総力戦で事に当たる必要があります。先人の少ない環境の分野では、特にしっかりした目的意識と広い視点が重要です。技術を身につけ、自分なりに使いこなすために、一定の下積みが必要な場合もあります。誇りある職業を目指すのであれば、目先にとらわれず努力することが必要ではないでしょうか。

仕事の種は、あちこちにあると思います。

雇用の場としても、例えば環境検査や、化学、医薬、食品などの研究開発、廃棄物の処理、環境分野で企業、消費者、投資家の信頼をつなぐ仕事など、必要とされる人材は多岐にわたります。たとえ環境と直接の関係が薄くても、今、環境に関する知識が不要な組織はありません。営業でも、経理でも、総務でも、環境についての正しい知識と環境マインドを持つことが大切です。例えば営業についても、環境保全的な新しいビジネスモデルがあるべきだと思います。

働き方も、フルタイムだけでなく、多様な可能性があります。たとえば特定のプロジェクトを行うために、いろいろな才能を持った人が集うような働き方も有効ではないでしょ

うか。

環境に関連する全く新しいビジネスを開拓することも、可能です。特に女性の起業・独立は、資金集めなど苦勞も多くありますが、逆に、例えば住宅設計など、女性の着眼、発想などが積極的に求められる分野も数多くあります。

何をテーマにするかはともかく、強い意志でねばり強く取り組んで、道を開いていくしかありません。成功すれば、特に環境の分野でこそ、夢とおもしろさが開けていくはずで

## (2) 金融・投資について ~ 環境の仕事を目指す人達をサポートする社会へ~

金融機関からの融資を受ける際に苦勞した体験は、多くの方が共有していると思います。国連環境計画（UNEP）の金融関係の会合などでも、日本の金融機関の参加はわずかでした。日本の金融機関は欧米の金融機関と比べて、環境面での融資の可否を判断する技量が遅れているともいわれます。これからは、金融機関が、男女の別に目を奪われず、また、環境ビジネスという過去の融資経験が少ない分野であっても、新たにビジネスを目指す人達を適切に評価し、支援していくことが必要です。また、これから変えたい方向に、お金の流れを変えることが大切です。

環境は、日本が世界の中で生き残り発展していく上で、最も戦略的な分野です。アジア各国などの経済成長に伴って、環境対策への需要はますます高まっています。ベンチャー企業への投資がもっと行われれば、日本の今後を開く大きな力になるのではないのでしょうか。そのためには、環境が事業として市場で適切に評価され、必要な資金の調達が可能となるようにしていく必要があります。

日本の金融機関や投資家の一部にも、金融商品に環境の視点を取り入れるところや、環境に関わる事業に有利な融資を行うなど、積極的なところが出始めました。政府も、国民もみんなで、先駆的な取組をしている金融機関を応援すると同時に、資金のニーズを広く伝えていきましょう。環境省は、意欲のある金融機関や投資家に、環境の情報をどんどん提供していくべきです。

社会的責任投資とは何かという質問が、未だに聞かれます。「企業の社会的責任」や「社会的責任投資」などについて、海外からの教訓も得て、日本固有のクライテリアができて広く使われることを期待します。

## (3) 環境情報・環境教育について ~ 環境意識を高める発信・人づくり~

環境ビジネスの発展に向けて最も重要なことは、多くの人々の環境意識が高まり、この意識が行動に反映されていくことです。例えば、当座の支払価格だけを見るのではなく、リサイクルの質や建物のライフサイクルを通じたエネルギー消費量など、真のコストにとって大切な環境の面も考えてから購入商品や取引相手を選ぶことが大切です。そのような人、組織が増えることで、よい事業者が伸びることが出来ます。人々のニーズに合わせた



大胆な情報発信によって人々の環境意識を高めていくことは、行政の重要な役割です。行政が企業間のネットワークをつくったり、住民との情報交換を行うことも大切です。

環境教育は、環境意識を高めるための重要な手段の一つです。学校をはじめ、社会に出た後も、環境について学ぶ機会を増やす必要があります。

日本の環境の取組をモデルケースとして世界に広めることも、国として行うべきことです。これは、大変な思いをして環境に取り組んでいる企業やNGOの人達を、元気づけることにもなります。

環境に取り組む企業は、増えています。これがもっと認知され評価されることで、環境に良い製品・サービスや事業形態を育てていくことができます。環境技術の開発・普及や、よい報告書の評価など、行政・消費者・投資家が一緒になって、企業の環境への取組を後押しすべきです。

#### (4) 行政について～環境政策で「環境と経済の好循環」の実現を～

政府や自治体の行う事業や規制に当たっても、前例を尊ぶあまり、ベンチャー企業の新しい商品やアイデアが不利に扱われるようなことがないか、政府や自治体は常に自問し、行政スタイルの革新に努める必要があります。

環境省は、金融・投資における環境配慮の促進、情報発信・環境教育などの環境政策に関して主導的に取り組んでいく必要があります。また、環境政策に関して、省庁間の政策を調整する役割も果たす必要があります。特に、「環境と経済の好循環ビジョン」の実現に向けて、全国各地で、様々な人々との対話を積み重ねることが大切です。健やかで美しく豊かな日本で、2025年に100兆円以上の環境関連市場をという数値目標の達成を目指して、社会全体のパートナーシップを育む必要があります。また、新しいアイデアが正当に対価を得る、知恵が評価される社会を実現するため、具体的な政策を進めていくべきです。

## 4. おわりに

私たちは、大きな時代の変化に遭遇しながら生きています。人類が地球の生態系の良き一部として生きられるかが、問われています。「環境と経済の好循環」や女性の一層の活躍など、考えることはいっぱいあります。生活者の視点を経済活動にもっと反映させるためにも、女性の一層の参加が必要です。

日本は「環境大国」を目指してアジアの中でリーダーシップをとる、大きな役割を担っています。環境面の日本のビジネスには、国内だけでなく、アジアにもとどまらず、欧米も含めた世界に売り込めるものがあります。今、生き甲斐を見つける上で最高のチャンスが訪れているのではないのでしょうか。これから生まれてくる世代とも地球の恵みを受けた幸せな暮らしを分かち合うために、これまでの人生で得たもの、感じたもののすべてを生かして、わくわくしながら、一緒に夢を追っていきませんか。



## (2) 第3期環境ビジネスウィメンからのメッセージ

～持続可能な社会を切り開く女性が創る環境ビジネス・まちづくり～

(第3期環境ビジネスウィメン懇談会報告)

### 1. 持続可能(サステナブル)な社会づくりと環境ビジネス

環境を良くすることが経済を発展させ、経済の活性化が環境を改善するという「環境と経済の好循環」が持続可能な社会の実現のために必要不可欠です。

平成19年6月に閣議決定した「21世紀環境立国戦略」においても、環境保全に携わる豊富な人材を、日本の強みの一つと位置づけています。その中でも、生活者として深刻な現実的な問題に対して、古いパラダイムにこだわらず、創造的かつエネルギーに行動する女性のパワーには大きな期待が寄せられています。2050年までに温室効果ガスを大幅削減する低炭素で持続可能な社会を実現する原動力となるでしょう。

平成20年4月から京都議定書の約束期間が始まり、地球温暖化対策は待ったなしの状況になりました。京都議定書の目標の達成に向けて、そして中長期的な持続可能な社会づくりに向けて、環境ビジネスや環境保全のまちづくりは重要な役割を果たします。その意味で、環境の分野で活躍している環境ビジネスウィメンが、持続可能な社会を担うフロントランナーとして活躍していくことが期待されています。

### 2. 環境ビジネスウィメンの活動の展開

[参加者のコメント：発言順]

- ◎生活者の視点からの省エネルギーに取り組んでおり、エネルギー環境調査と環境教育に注力した活動を行っています。(大庭委員)
- ◎人、地域、地球の健康を志向する“ロハス”の考え方を、ビジネスや地域活性化に活用しています。また、カーボンオフで農を大切にする、新しいライフスタイルを広めてまいります。(大和田委員)
- ◎環境を社会システムの中に取り込むことが必要と考えており、企業の環境やCSR活動の調査研究、金融が与える社会への影響を生かして環境を良くしていくという活動に取り組んでいます。(河口委員)
- ◎人の魅力は「姿」「体」「心」の調和、すなわちホリスティックなものだと日々メッセージしています。己の環境を大切にしていねいに暮らす美意識を普及していきたいですね。(岸委員)
- ◎記者経験を生かして、環境と社会貢献と「志」のビジネス情報誌『オルタナ』を創刊し、環境や健康だけでなく、CSRなどの情報発信をしています。(木村委員)
- ◎環境問題に対して一人でも多くの区民の皆様が、身近な、ほんの小さなことからでも具体的な行動を起こしていただけるよう「一人の100歩より、100人の一歩」を引き出すための具体的な施策を展開しています。また、太陽光発電システム設置費への



大幅助成や被覆率の向上など、行政でなくては取り組めない課題の解決を目指します。  
(近藤委員)

- ◎ ISO14001 と ISO9001 の運用と、組合と組合員の協働をコーディネートする仕事をしています。(齊藤委員)
- ◎ 『通販生活』を通して、温暖化時代の買い物と暮らしの流儀を提案する。小売として、メディアとして、できるだけ持続可能な消費を追求し、作り手と使い手に伝えていくのが私の使命です。(竹本委員)
- ◎ 消費者と企業をつなぎ、トラブルを無くすようにサポートするのが私ども組織の役割です。私は環境に配慮した商品と企業を選ぶための環境情報の重要性を、消費者と企業の双方に訴えかけております。(辰巳委員)
- ◎ ユニフォーム用として使用されるネクタイ・スカーフなどを「回収」し、それをまた繊維(糸)に戻し、その糸を使用してまた製品にするという「回収リサイクル」を行っています。(玉置委員)
- ◎ ISO の環境ラベルの日本代表エキスパートをしています。製品の環境情報やエコラベルを活用することを根付かせるための調査研究に取り組んでいます。(中庭委員)
- ◎ 長年の新聞記者経験を生かして、広報・WEB戦略などを中心に担当しています。プランタン銀座では若い社員からのアイデアを生かし、“おしゃれにエコする”楽しさを生活者に提案しています。(永峰委員)
- ◎ 東京港の「民間リサイクルポート」としてモーダルシフトへの転換を促進し、さらなるCO<sub>2</sub>削減を目指します。(吉本委員)

### 3. メッセージ

#### (1) 女性の共感が導く持続可能な社会づくり

持続可能な社会は、個人の心と体の健康を向上させながら、地域社会や地球の健康に配慮したライフスタイルや価値観が普及する社会です。それは、温室効果ガスを大幅に削減する低炭素社会、資源利用の最小化、循環利用を進める循環型社会、生物多様性の保全を進める自然共生社会を実現する持続可能な社会づくりを目指します。

しかし、多くの場合、温室効果ガスの削減など「低炭素社会への環境保全の取組」には堅い、真面目というイメージが先行しているため、国民運動として展開するためには、関心の薄い人たちをひきつける工夫が必要です。そこで、すでに日々の暮らしの中で、生活に根ざした女性の感性を武器に、無理せず、自分のできるところから、楽しみながら、ライフスタイルとして取り組むロハス(Lifestyles of Health and Sustainability)を実践している人々が注目されています。例えば、プランタン銀座で取りくまれたような「アロハシャツ出勤デー」のように若い女性や社員が「おしゃれにエコする」活動など、押し付けではなく、自主的に自分流のスタイルで行うのを進めることが重要です。

自然の恵みを積極的に頂く環境ビジネスウィメンが推奨する持続可能な暮らしとは、



- 持続可能な住宅（高い断熱性能、自然エネルギーの積極的活用、木造の在来工法、草屋根、雨水利用など）に住みます。家庭では、その地域の気候風土を生かしつつ、省エネ機器を暮らし方に合わせて選び、効果的に使いこなします。
- 食べるものは、地産地消、オーガニックのもの、過剰包装のないものなどをなるべく選び、日用品、洋服などもオーガニックやリサイクルの材料を活用したものを選ぶようにします。また、安いものに飛びついて、すぐに廃棄するのではなく、長く使える良いものを選びます。
- 通勤や通学には電車やバスを使い、時間に余裕のあるときには、一駅、二駅手前で降車して、街の景色や道端の草花を楽しみながら歩きます。
- 職場では、環境に配慮したビジネスモデルを作り出し、また、製品の開発、サービス提供、まちづくりなどにおいても環境をキーワードに取り組みます。
- 休日には、ショッピングに費やすだけでなく、家庭の庭や地域のコミュニティ・ガーデンで地域の友人たちと一緒に有機の野菜や花づくりを行い、収穫できた野菜で、ベジタブル・バーベキューパーティを楽しみます。ハイキングなどのアウトドアに親しむ機会も設けるようにします。自然の素晴らしさを五感で堪能し、地元の旬の食材をいただきながら、地域の人たちと交流します。移動の際にはなるべく公共交通機関を利用し、そして発生した二酸化炭素排出量はカーボンオフセットをします。また、精神と体のバランスを保つべく、ヨガやフィットネスも楽しみます。このようにグリーンな休日を過ごします。
- 金融商品を購入する際、資金を運用する際には、その金融商品の環境に対する配慮などを考慮して選択します。
- このようなライフスタイルの中で、女性も男性も協働して、五感豊かな子どもを育てます。また、心と体を充実させることで、自分、地域そして地球の美しさを実現します。

このようなライフスタイルを実現するために必要な商品やサービスを提供する、以下のようなビジネスや活動が不可欠です。

### ○持続可能なライフスタイルに必要な製品・サービスの提供

持続可能なライフスタイルを実現するためには、製造、使用そして廃棄やリサイクルの全段階を通じて環境に負荷の少ない製品・サービスの利用が不可欠です。例えば、機能性も高く飽きが来なくて長期間の使用にも耐える、それでいておしゃれで、良いデザインをもった高品質で環境に配慮した製品（リサイクル繊維を用いた洋服やスカーフなど）、このような持続可能な商品を販売する百貨店やスーパー、通信販売事業など、多くの女性は、このようなビジネスの発展に期待しています。さらに、このような流通事業においては、農山漁村と都市とを結び、持続可能な取組にお金を流す仕掛けを作っていくという視



点も重要です。

そのためには、消費者と企業をつなぎ、企業において消費者のニーズへと積極的に対応した製品・サービスが迅速に開発、販売が行われるようサポートしていくことも重要です。

### ○持続可能なライフスタイル実現に向けた環境教育、情報発信

まずは、人々が持続可能なライフスタイルを気楽に選ぶことができるような環境教育、情報発信が重要です。例えば、楽しみながらできる省エネ生活の工夫を学ぶことのできる環境教育が有効です。その際には、家庭にある機器や暮らし方、住宅、気候風土の4つの視点及び家庭のライフサイクル（子どもが生まれ、子どもが学校に通い、子どもが独立するなど）の視点から、効率的な省エネルギーの取組を支援するエネルギー予報などが考えられます。

また、製品の環境情報を消費者にわかりやすく示すエコラベル、人と社会と地球を大事にするビジネスやライフスタイルに係る情報を雑誌などを通じて発信・普及を進めていくことも不可欠です。そのためには、消費者が製品の環境情報の表示が適正になされているかチェックする「環境表示ウォッチャー」のような体制づくりも望まれます。さらに、今後は、一人一人の人間の姿、体、心の調和を図りながら、個人、地域、地球環境を美しくしていくという新しい美意識の普及も欠かせません。

### ○持続可能な社会を支える静脈産業や金融ビジネス、行政の施策

持続可能なライフスタイルは、直接的な環境負荷の削減、表面的な楽しさ、美しさだけを追求するものではありません。廃棄物の発生を削減していくとともに、静脈のビジネス活動により様々な活動で生じる廃棄物を効率的に運搬し、リユース・リサイクルしていくことが重要です。

また、持続可能なライフスタイル形成を支援するビジネス活動に必要な資金が投資されるよう、金融の仕組みを改変していくことが必要不可欠です。

さらにこのようなビジネス活動やライフスタイルの取組にインセンティブを与え、経済面だけでなく、知恵や価値を積極的に評価する仕組みづくりという点で、地域及び国レベルでの行政にも高い期待が寄せられています。

環境ビジネスウィメンは持続可能な社会を切り開くリーダーとして、このような人々の持続可能なライフスタイルをサポートするビジネス活動を積極的かつ戦略的に取り組んでいきます。

## (2) 持続可能なライフスタイルを実現するために必要な取組

持続可能なライフスタイルを幅広く普及していくためには、個人の行動を転換させるインセンティブが有効です。一般的に、女性は、日々のコツコツとした積み重ねを楽しみな



から実践する素養をもっています。例えば、省エネ家電などの温室効果ガス削減に資する商品の購入や、節電などの省エネ活動によりポイントがたまり、商品に交換することができるというエコポイントの仕組みが導入されれば、多くの女性は喜んで参加するでしょう。

また、持続可能な社会実現のためには、資源採取、製造、輸送、使用、廃棄などライフサイクルで見て環境負荷の少ない製品・サービスの選択を促す仕組みも重要です。

また、企業が希望する場合には、一人一人の国民が削減した温室効果ガスの量を買取り、企業の削減としてカウントできるようにするなど、ビジネス活動と消費者をつなげるシステムも有効でしょう。さらに、一人一人の国民が自らの行動に対しカーボンオフセットした場合、その量を国に寄付すると、税の優遇を受けることのできる仕組みが構築できるとすばらしいと考えます。

このような形で、持続可能な社会を実現するライフスタイルを促す取組を進めるとともに、持続可能な社会を担う環境ビジネス、社会起業家を育てていくことも重要です。私たちのように、環境で起業する、ビジネスの中で環境を売りにして事業展開をする人たちはまだまだ多くはありません。人、地域、地球環境を健康にすることを目指す環境の社会起業家を育成していくための中間支援組織も求められています。

また、持続可能な社会を実現するライフスタイル、ビジネスを支えていくためには、「毎日遅くまで、休日も返上で仕事をする」という従来のワークスタイルを、子育てや地域での活動を重視するためにワークシェアリングやテレワークをする、仕事を効率化し自分の時間を持つなど、女性の視点から改善し、女性及び男性の両者にとって、ワークライフ・バランスに配慮した働きやすい職場づくりを促していくことが重要です。また、例えば、「自然との触れ合い、満足感得られる無駄遣いのない生活、ストレスから自分を開放し、心の余裕がもてるようにするために「上げスイッチ」の実践、「ブサイクになるほど仕事はしない」という発想で、前向きな姿勢で仕事に取り組むことが重要です。

このような取組の実現に向けて、環境ビジネスウィメン、環境省及びその他の関係者と協働しながら取り組んでいければ幸いです。

### **(3) G8 環境大臣会合、G8 洞爺湖サミットに向けた 環境ビジネスウィメンからのメッセージ**

他の国に誇るべきわが国の宝は、①資源を循環利用して自然と共生する暮らしや地域社会を築いてきた伝統や知恵、②便利で無駄のない生活を可能にするハイテク技術力、これらは持続可能な社会を実現していくために鍵となるものです。わが国が世界を先導する持続可能な社会を築いていくために、環境ビジネスウィメンは、

- I 温暖化などの地球環境に対する危機意識を持ち、生活実感を大切に、スマートかつ洗練された方法で持続可能なライフスタイルを実践します。
- II 環境問題への対応のため、1人の100歩ではなく、たった一歩でも、1億人の1



歩を進める「もの、知恵、サービス、情報、金融、社会の仕組み」を提供するビジネス、社会活動を展開します。

G8 環境大臣会合、G8 洞爺湖サミットを契機として、私たち環境ビジネスウィメンは、海外の環境ビジネスウィメンや彼女らが進めるビジネスとも連携しながら、持続可能な社会を実現するロールモデルとして内外でさらなる活動を進めていきます。